

平成 30 年度第 1 回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：平成 30 年 9 月 6 日（木） 13：30～16：30

場所：幡多クリーンセンター 2階 会議室

出席：委員 27 名中、24 名が出席（代理出席 3 名含む）

議事：(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

(2) 地域アクションプランについて

1) 第 3 期幡多地域アクションプランの進捗状況等について

2) 地域アクションプランの修正案件について

(3) 産業成長戦略について

1) 移住促進の取り組みについて

2) 自然・体験型観光キャンペーンについて

議事 (1) (2) (3) について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）

議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

(1) 産業振興計画関連 年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

(2) 地域アクションプランについて

（地域アクションプラン全体）

（中脇委員）

高知県は、ぶしゅかん、直七、ゆずなど酢みかん文化が盛んだが、全国的に違いが分かっているため、味の違いや食材による使い分けや新たな利用方法などを整理して全国に提案していくことに戦略的に取り組んでもらいたい。

（松村地域産業振興監）

一地域に柑橘の産地がこれほど集まっているのは稀である。魚と合わせて売る、加工品として売るなど、土佐の食文化も PR しながら観光資源として観光客の増加を目指していきたい。また、そこにアクティビティを加えることで更なる好循環につなげていきたい。

（浜田委員）

幡多地域アクションプランの総売上額など、全体的な成果と伸びのわかる実績、また雇用者数の推移を整理し、次回から提示してほしい。

(長山委員)

資料や説明で各アクションプランの状況は分かったが、それぞれの課題に対して県がどこまで踏み込んで対応しているのかをもっと分かりやすく示してもらいたい。

(松村地域産業振興監)

各市町村に駐在する地域支援企画員、各出先機関職員は事業者を定期的に訪問し、現状と課題、将来展望を聞き取り、それぞれに応じた支援策を提案している。例えば、展示会への出展の機会づくりや、商人塾、HACCP 研修といった勉強の場づくり、また、専門家の派遣や補助制度等により事業者のサポートを行う伴走支援を行っている。従来の「待ち」の姿勢ではなく、事業者と一緒に課題解決に取り組んでいる。

(立田委員)

水産加工では原魚が不足傾向であり、養殖魚の安定供給に関して体制を強化してもらいたい。また、人手不足が深刻なので県や市町村が連携して方法を考えてもらいたい。

(柳川宿毛漁業指導所長)

養殖魚の安定供給に関しては、マグロは民間企業の協力を得て、昨年度初めて人工種苗の供給ができた。ブリは今年度から委託事業で人工種苗の生産の実施を予定している。今後は、天然種苗だけに頼らず、生産した人工種苗を用いて、養殖事業者への確実な種苗供給体制を整えていく。

人手不足に関連しては、漁業に興味のある人が相談できるワンストップ窓口機関を近々立ち上げる予定しており、人材確保に努めていく。

(大西委員)

幡多地域の資源や各事業者が持っている設備や技術等を一覧化した情報があれば、それをもとに事業者間のマッチングにつながったり、ビジネスにつながる可能性があると思う。

(西宮委員)

土佐清水市においても、平成 31 年度のビジターセンターや爪白キャンプ場のオープン、足摺海洋館の 2020 年夏のオープンなど、自然・体験型観光の取り組みは土佐清水市にとって大きなチャンスと考えている。幡多 6 市町村としっかり連携をしながら取り組んでいかなければならないと思っているので、協力をお願いします。

(3) 産業成長戦略について

(山本委員)

旅行商品は市町村個々ではなく「幡多は 1 つ」で売っていく必要があるため、地域アクションプランも幡多地域全体での成果や伸びが示されればよい。県には、幡多の商品を一体的に PR していただきたい。

自然・体験観光キャンペーンは、補助制度を活用しやすいような対応をお願いしたい。

(和田地域観光課課長補佐)

自然・体験型観光関連への支援は、アクティビティだけではなく、従来のメニューに付加価値をつけることでも活用できるようにし、広く体験観光を支援していくので、気軽にご相談いただきたいと思います。

(以上)